

6.安定かつ効率的な収集・処理体制 6-2.焼却施設の更新及び統合

◎現状／課題

○ごみ量の減少

- 人口減少に伴うごみ量減少により、適正な処理体制の構築が必要。
- 小規模施設（鎧潟、豊栄）では処理経費が高く、また、余熱の十分な活用ができていない。

○施設の老朽化

- 稼働年数 亀田：約 22 年、鎧潟：約 17 年、豊栄：約 38 年
- 全国的に 25 年程度で更新している施設が多い。
- 施設の老朽化により故障等のリスク増

◎今後の方向性

○施設の更新及び統合

- 老朽化した施設を更新。
- 今後のごみ量を踏まえ、点検・故障時のリスク、既存施設の活用、費用、CO2 排出量の観点から施設数を検討。
- 現在の 4 施設を 2 施設（新田、更新施設）に統合

○施設特性を活かした付加機能の検討

- 更新施設では、廃棄物発電の増強・活用、余熱の多用途への利用、防災拠点、環境教育の場など付加機能を検討

◎関連事業（既存／新規）